

社会福祉法人東の会  
令和2年度 保育所自己評価の項目

カテゴリー・サブカテゴリー	評価項目	項目の選択
1 リーダーシップと意思決定		
1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	①事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している ②経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている ③重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえ意思を決定し、その内容を関係者に周知している	○
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	①事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	
2 実践的な計画策定に取り組んでいる	①事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している ②着実な計画の実行に取り組んでいる	
3 経営における社会的な責任		
1 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	①社会人・福祉サービス事業者に従事する者として守るべき法律・規範・倫理などを周知し、遵守されるように取り組んでいる	
2 利用者の権利擁護のために、組織的な取組を行なっている	①利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている ②虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている	
3 地域の福祉に役立つ取組を行なっている	①透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる ②地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取組をしている	
4 リスクマネジメント		
1 リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる	①事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる	○
2 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている	①事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている	

5 職員と組織の能力の向上		
1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる	①事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている	
	②事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している	
	③事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる	
	④職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる	○
2 組織力の向上に取り組んでいる	①組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる	○
6 サービス提供のプロセス(認定こども園)		
1 サービス情報の提供	①利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	
2 サービスの開始・終了時の対応	①サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている	
	②サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行なっている	
3 個別状況の記録と計画策定	①定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析及び課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している	
	②全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している	
	③子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している	○
	④子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している	
4 サービスの実施	①子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	○
	②子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行なっている	○
	③日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるように工夫している	
	④日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している	
	⑤保育時間が長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている	

		⑥子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している	
		⑦子どもが心身の健康を維持できるよう援助している	○
		⑧保護者が安心して子育てすることができるよう支援している	
		⑨地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行なっている	
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	①子どものプライバシー保護を徹底している	
		②サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している	
6	事業所業務の標準化	①手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	
		②サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている。	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動			
	1 事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行なっている	①事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている	

社会福祉法人東の会  
令和2年度 保育所自己評価の項目

カテゴリー・サブカテゴリー	評価項目	令和2年度評価項目選定理由、着目点など
1 リーダーシップと意思決定		
	1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	③重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえ意思を決定し、その内容を関係者に周知している
令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対応の1年となった。第1波による長期の園閉鎖、2波、3波、4波と度重なる感染拡大危機の中で、これまでに経験したことのない状況が次々と発生し、その対応に迫られた。危機管理が必要される状況での、経営層の意思決定、リーダーシップはどうであったのか？成果と課題は何か？		
4 リスクマネジメント		
	1 リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる	①事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
新型コロナウイルス感染症対応を中心に、事業所のリスクマネジメントの取組みはどうであったのか？成果と課題は何か？		
5 職員と組織の能力の向上		
	1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる	④職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる
新型コロナウイルス感染症対応は職員の生活を直撃した。そのような中で、事業所には一人ひとりの職員に対しての支援が必要となった。その取組みはどうであったのか？成果と課題は何か？		
	2 組織力の向上に取り組んでいる	①組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
新型コロナウイルス感染症対応は、従来の職員間のつながりの形が分断される状況を生み出したが、組織としてのチームワーク、一人ひとりの職員が理解し合うことの重要性を認識することになった。組織力の向上の取組みはどうであったのか？成果と課題は何か？		
6 サービス提供のプロセス(認定こども園)		
	3 個別状況の記録と計画策定	③子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している
保育の質の向上には、保育士・保育教諭等の保育の記録を中心としたPDCAサイクルが重要である。記録の基となる、個々の保育士・保育教諭の保育視点、記録向上への取組みはどうであったのか？成果と課題は何か？		
	4 サービスの実施	①子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
子ども一人ひとりの発達の状態、家庭環境等の育ちの状態に対応した最適な保育の実施は、重要な課題となっている。個別配慮等の保育について、取組みはどうであったのか？成果と課題は何か？		

		<p>②子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている</p>	<p>新型コロナウイルス感染症対応の一環として、リモートワーク・在宅勤務などが推奨され、新しい勤務形態が進んでいる。子ども一人ひとりの生活のリズムも多様化する中で、それらに配慮した保育について、取り組みはどうであったのか？成果と課題は何か？</p>
		<p>⑦子どもが心身の健康を維持できるよう援助している</p>	<p>コロナ感染症から、子どもたちを守るための取り組みはどうであったのか？成果と課題は何か？</p>

	評価項目	令和2年度評価項目選定理由、着目点など	2年度の評価	今後の改善計画
<b>1 リーダーシップと意思決定</b>				
1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	③重要な案件について、経営層(運営管理を含む)は実情を踏まえ意思を決定し、その内容を関係者に周知している	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対応の1年となった。第1波による長期の園閉鎖、2波、3波、4波と度重なる感染拡大危機の中で、これまでに経験したことのない状況が次々と発生し、その対応に迫られた。危機管理が必要される状況での、経営層の意思決定、リーダーシップはどうであったのか？成果と課題は何か？	新型コロナウイルス感染症対応については、関係行政当局情報を、園と法人本部の2ルートで収集することで、情報の収集漏れが起きないように細心の注意を払った。その情報を基に、法人本部と園管理者が連携して内容を吟味し対応を決定して実施した。法人と園で共通する対応、各園による個別対応を組み合わせることで、園に最適な行動を短時間でとることができた。次々と判断が求められる中で、法人本部と園長が連携し、分担することで、最適な意思決定とリーダーシップを図ることができた。	新型コロナウイルス感染症の対応では、感染の危険から本部と事業所の職員の行き来ができない事態となり、事業所の孤立が課題となった。事業所の状況把握、対応の判断、支援のサポートなどができる機能を本部が持つ必要がある。また、今回のような事態や大規模災害などの対応をよりスムーズにするために、Zoomなどの手法を取り入れたい。これらをBCP計画等に組み込むなど、人員、設備、マニュアル等の整備を実施したい。
<b>4 リスクマネジメント</b>				
1 リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる	①事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症対応を中心に、事業所のリスクマネジメントの取組みはどうであったのか？成果と課題は何か？	今回の新型コロナウイルス感染症対応においても、これまでに実施してきた感染症対応によって抑え込むことができた。備品在庫が厳しくなる事態もあったが、法人本部が主体となり、次の事態を早期に予測し、資材確保もできた。消毒や手洗い、職員・園児・保護者の健康チェックなども、これまでの研修や意識づけによって、個々の職員がしっかり対応することができた。	今回の新型コロナウイルス感染では、職員の生活も一変し、生活の孤立化によって不安を訴える職員が多かった。職員のメンタル面の状況把握とサポートもBCP計画等に組み込むことを検討したい。
<b>5 職員と組織の能力の向上</b>				
1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる	④職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症対応は職員の生活を直撃した。そのような中で、事業所には一人ひとりの職員に対しての支援が必要となった。その取組みはどうであったのか？成果と課題は何か？	新型コロナウイルス感染症の拡大によって、第1波の時は、休園指示もあったが、それ以降の緊急事態宣言下でも、通常開園が国からも指示され、園活動を継続した。このことは、園や保育が社会に不可欠のものであることを、改めて自覚することとなった。気になる点として、一部の保育教諭に保育を楽しむ姿が少なく、そのことが子どもの保育にも影響していると感じた。そこで、全員で保育や生活を充実させることを目指して、楽しい保育、笑顔で保育することを提唱し取り組んだ。すぐに変化が出たわけではないが、話し合いを継続することで、気づきがあり、楽しい保育を行うとする姿が見られるなど、良い方向に進んでいる。	保育・教育の仕事の価値の再発見、自覚は今回の感染症から得た重要点である。保育の対象は子どもであるので、子どもたちと「～したら楽しいぞう、～をしよう」といった姿勢で保育に取り組むことで、子どもとともに成長することを目指したい。保育・教育の価値を高めていく視点で、一人ひとりの職員に問いかけ、明るい、前向きな行動を引き出していきたい。
2 組織力の向上に取り組んでいる	①組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症対応は、従来の職員間のつながりの形が分断される状況を生み出したが、組織としてのチームワーク、一人ひとりの職員が理解し合うことの重要性を認識することになった。組織力の向上の取組みはどうであったのか？成果と課題は何か？	第1波の休園の状況で、多くの職員が、孤立感と自己喪失感を感じたと言っている。そこで、園の目標とする保育を伝えつつ、個々の職員は、自分の思いを伝える、相手の思いを受け止める、互いに認め合い、励まし合うことで、チーム力の向上を訴えた。多くの職員は、園の方針を理解をし、献身的な協力で、チームワークの高まりができてきた。	こども園には良好なチームワークが必須であるが、それは、チーム員一人ひとりの意識と人間性によって創られる。他者を認めない姿勢は、他者との軋轢を生み、法人理念の「みんなで作るみんなの笑顔」とは逆行してしまふ。新型コロナウイルス感染症の混乱の中で、職員の園や仲間に対する意識に良い変化が見られている。子どもたちのために良い保育を行うには、自分がどう成長するか？といったことを考える職員を育成していきたい。

6 サービス提供のプロセス(認定こども園)				
3 個別状況の記録と計画策定	③子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している	保育の質の向上には、保育士・保育教諭等の保育の記録を中心としたPDCAサイクルが重要である。記録の基となる、個々の保育士・保育教諭の保育視点、記録向上への取り組みはどうかであったのか？成果と課題は何か？	コロナ感染で保育の始まりが例年より遅れたこと、感染防止に配慮した保育計画の策定や保育内容の変更があったことにより、記録と計画策定に混乱が生じた。手探りの状況になったが、内容を見直し、園の方針で定めた「楽しい保育、笑顔の保育」に沿って取り組むことができた。閉園による自宅待機期間に、職員が自主的に保育のスキルの学習(ピアノ、ペープサート、絵本など)に取り組みすることで、再開後の保育に生かされ、子どもが楽しむ姿が見られた。これらの活動記録を作る途中で、保育教諭同士やリーダー・管理者によるコミュニケーションが活発に行われることで、保育・教育の質の向上に結び付いている。	日常の記録を作成する段階から、保育教諭同士やリーダー・管理者によるコミュニケーションが活発に行われることで、週案や月案などの計画の立案・見直しに結び付いている。これを継続することが、PDCAサイクルによる質の向上となるので、今後も保育の実践と記録の充実を図っていきたい。
4 サービスの実施	①子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	子ども一人ひとりの発達の状態、家庭環境等の育ちの状態に対応した最適な保育の実施は、重要な課題となっている。個別配慮等の保育について、取り組みはどうかであったのか？成果と課題は何か？	乳児においては、子ども一人ひとりの発達に応じた保育を目指して、緩やかな担当制保育の取り組みで、少人数グループで「待つ」が少なくなる保育を行った。個々の発達に合わせた、ゆったりと丁寧な関りができていた。幼児は、保育教諭に見守られ、「やってみよう、やってみよう」と意欲を持ち取り組むことを目指した。やってみようことにじっくりと取り組む姿が見られ、友達を励ましたり、協力したり、競い合う姿が見られた。3月終了時に、年長児は「～名人」、年少・年中児は「～ができるようになった、～をがんばった」等をカードにして、家庭に持ち帰り、家庭との連携を図った。	緩やかな担当保育などの新しい取り組みは、外部研修の受講や本などによる職員の学習から提案されたものである。このような活動は、実践と反省、工夫の連続で、成果が見えるまでには多くの努力が必要である。子どもたちのために、保育・教育に熱意をもって今後も継続して取り組んでいきたい。
	②子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行なっている	新型コロナウイルス感染症対応の一環として、リモートワーク・在宅勤務などが推奨され、新しい勤務形態が進んできている。子ども一人ひとりの生活のリズムも多様化する中で、それらに配慮した保育について、取り組みはどうかであったのか？成果と課題は何か？	仕事の家事の両立の中で、よい親子関係が築けるように、ポジティブな気持ちになるような家庭支援を工夫した。こども楽しい活動を紹介する「にこにこ通信」やメール配信を実施した。コロナ感染で保育参観が中止になったため、園での様子を年4回家庭にお伝えし、家庭からは子どもの家庭での様子を用紙に記入してもらい、情報を共有して日々の保育に生かした。このような家庭との連携、保護者との共通理解によって、子どもの保育に細かい配慮ができるようになった。支援の必要な子どもには、園での状況を家庭に伝えるとともに、支援機関とも連携して保育を進めた。園独自で経験豊富な臨床心理士に定期的にこどもの様子を見てもらい、発達の状況と保育の工夫やアドバイス受けながら、園内で話し合っ、その子に合った保育を全員で取り組んだ。	新型コロナウイルスに対応することで、園も家庭もこれまでとは違った生活になっている。家庭と園での生活の状態やリズムが変わることで、子どもへの影響が出てくるので、園と保護者で共通理解や連携が大切である。園では家庭での、家庭では園の、睡眠や休息、食事や離乳食、健康や病気、気になる行動や発達・発育、遊びや興味などにの情報を相互に共有することが重要である。家庭との積極的な連携を図りながら、子どもの健全な成長を促していきたい。
	⑦子どもが心身の健康を維持できるよう援助している	コロナ感染症から、子どもたちを守るための取り組みはどうかであったのか？成果と課題は何か？	感染防止には、2点の視点が必要である。1点が園での感染拡大させない対応を実施すること、2点目が職員が公私両面で感染しないことである。1点目の園での感染防止は、地域の感染状況の把握、3蜜の回避、手洗・うがい・消毒の徹底、園児受け渡しの制限による外部との区分け、体調不良者の早期発見、受け入れ制限、帰園処置などを実施した。2点目の職員の自己管理の徹底は、プロ意識の啓発と具体的な行動制限への注意喚起を早期に継続的に実施した。これらがいかに徹底できるかが感染防止の効果を定めるが、職員と保護者の協力によって、園内での感染拡大は回避することができた。	新型コロナウイルスに限らず、園では日常的に様々な感染症リスクさらされている。感染症拡大防止は最初の発症者で抑えむことに尽きる、そのためには、最初の対応者が誰であっても、正しく、スピーディな対応処置が必要である。それを可能にするには、一人ひとりの職員の自覚と訓練が重要であるので、継続して繰り返しの教育を実施したい。